

どちらの大会も目指すは金



新潟県で開催される第11回(2024年度)全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会―かしわざき潮風カップ―へ岐阜選抜チームとして出場すること、千葉県で開催される第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会(水球競技)へ大垣市水球クラブで出場することを報告するために、野村倫太郎選手と大橋龍生選手が3月14日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

野村選手(写真右)は「出場するどちらの大会においても金メダルを獲れるよう、ベストなコンディションで出場できるよう調整したいです」と意気込み、大橋選手(写真左)は「年上の選手や自分より身体が大きな選手にも気持ちで負けないプレーをしたいです」と気迫を見せました。

岐阜県に初優勝を



三重県で開催される第36回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会へ出場する稲垣亜瞳選手(GifuTed所属)が、3月14日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「中学生になっても変わらず活躍を聞くことができ嬉しいです。毎回、多くの人から期待され、プレッシャーがかかる中でプレーしていることと思いますが、ベストな状態で臨めるように、大会に向けて気持ちやコンディションを整えていってください」と励まし、稲垣選手は「岐阜県はこの大会での優勝はまだなく、昨年は準優勝だったとのことなので、昨年を越えて初優勝することを目指し、守りに入ることなく自分らしいプレーをしたいです」と優勝にかける思いを話しました。

持ち前の明るさを武器に



大垣ミナソフトボールクラブへ入団する久保田優海選手(株式会社大光)が、3月24日(月)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

川地町長は「中学校での部活動がなくなり、競技人口の減少が見込まれる中、養老町にとって希望にあふれた明るい話題です。持ち前の明るさとレーザービームを武器に、久保田選手が活躍されることを願っています。町を挙げて応援していきます」とエールを送り、久保田選手は「チャンスの場面で1本打つことを目標に、自分が出場することでチームにいい影響を与えられる選手になりたいです。養老町に明るい話題を届けられるよう、地元で活躍する姿を見せていきたいです」と目標を語りました。

年齢を重ねても忘れない“挑戦する心”



沖縄県で開催される第39回全日本トライアスロン宮古島大会への出場を報告するために、松尾隆浩さんが4月11日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

松尾さんは「60歳を過ぎてから自己ベストを更新し、全国大会への出場が叶いました。テクニックや経験も大切ですが、情熱による結果だと思います。42年余りをサラリーマンとして過ごし、定年を迎えたひとつの節目として挑戦の思いからエントリーしました。プロ選手や学生など強豪ばかりですが、時間制限内での完走を目指します」と意気込みを話し、川地町長は「還暦を迎えても、挑戦する精神には敬服します。コンディションを整えて完走されることを祈念しています」とエールを送りました。